



東京支部として初めての大衆行動 2023春闘を振り返って

今年の春闘は東京支部発足後初めて大衆行動を取り組んだ。コロナ禍で結成された東京支部だが、この間の自粛生活でなかなか大衆行動を取り組むことができなかった。組合員の中には、集会や会議などが次々と中止、あるいはリモートでの開催などを余儀なくされたことで「うっぷん」がたまっていた仲間もいたことだろう。支部主催の新宿駅南口駅頭宣伝行動（3/8）、常磐地区連絡会の隅田川駅宣伝行動（2/27）、金町駅頭宣伝行動（3/4）などが取り組まれた。

23春闘は、まだまだ続いているが少し振り返ってみたい。JR東日本は3月14日に以下の回答を示した。①係数4の定昇実施②ベアは所定昇給額の1/4+4,000円③エルダー社員は基本賃金に3,000円を加えるなど。国労は翌日に妥結した。この回答が妥当かどうかは、あえてここでは述べないでおこう。

さて、中小零細企業の春闘はまだ続いているが先日新聞記事を見てみたい。個人加盟の労働組合が集まって賃上げに取り組む「非正規春闘2023実行委員会」は、非正規労働者を対象としたアンケートの結果を公表した。約8割の非正規労働者が「賃上げなし」と回答した。（4月4日、東京新聞より）

自動車産業を中心とした大手企業は、異例の早さで「満額回答」をした。一方で上記のように、約8割の非正規労働者の賃金は据え置きなのだ。

JR東日本では約8割の社員が組合未加入である。「大幅賃上げ」を勝ち取れない問題と無関係ではないだろう。

利用者と一体となった闘いを構築しよう

先日、「金沢駅のみどりの窓口が連日大混雑で利用者から不満の声が上がっている」とマスコミ報道された。新型コロナの感染収束に伴って鉄道需要が回復してきた、としているが、中には1時間以上も並んでいた方もいたという。

JR東日本でも「みどりの窓口」の閉鎖が続いている。直近では巣鴨駅のみどりの窓口が1月末をもって閉鎖となっている。そのため巣鴨駅から近い池袋駅のみどりの窓口に利用者が流れていることは察しがつく。

JR東日本は、コロナ禍で利用者が減っているため、として「みどりの窓口の縮小」「改札要員の削減」などを推し進めてきたが、利用者も戻ってきている今日、やはり必要に応じて窓口を増やすことや、MVなどの案内要員を置くべきではないのか。利用者を並ばせ、長時間待たせることが、果たしてサービスといえるのか。「人にやさしいJR」は、もう戻ってこないのだろうか？